米国株式　情報通信セクターの投資環境について

2014年1月22日

情報提供資料

ビッグデータの可能性

ビッグデータとは？

- ビッグデータとは、日々大量に蓄積される様々なデータを処理することで、人間では判断しづらい消費者の傾向や市場のトレンドを抽出する技術のことを指します。この技術によって、これまで利用することができず廃棄されてきたデータの有効活用が期待されています。
- 「多くのデータからその法則性を見つけ出す」という概念自体はそれほど新しいものではありませんが、かつては大量のデータを集めるためのITインフラには巨額の投資が必要であり、またコンピュータそのものの処理能力が低かったこともあり、その利用は限定的でした。
- 一方で近年では、情報処理技術の開発が進み、クラウド・コンピューティングが躍進したことで、企業は比較的安いコストで最新のインフラを利用できるようになり、大量のデータを処理して利用するビッグデータに注目が集まりつつあります。

ビッグデータの具体的な利用例

- **WEB検索/オンライン広告**

  利用者の検索履歴や閲覧履歴から、利用者の性別や年齢層、嗜好を判断し、それを検索結果に反映させるサービスを提供しています。あるいは広告主に対しては、**適切なマーケティング対象にのみ広告を表示**させるなどのサービスが存在します。

- **小売販売**

  小売の販売店では、1日1日の仕入れの量やタイミングを管理することが非常に重要といえますが、ビッグデータの技術を利用することで**営業日や日付、あるいは温度や湿度といった気象情報等から、適切な仕入れの量やタイミングを計算**することができます。

- **医療**

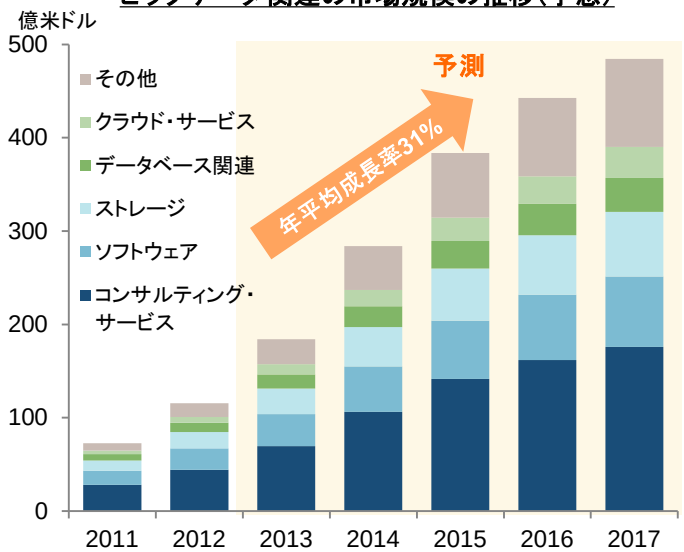
  入院患者の生体データをリアルタイムで蓄積/分析することで、患者の異常をいち早く検知することができます。実際に、早産で生まれた新生児のモニタリングでは、**ビッグデータ技術を利用することでベテラン看護師よりも6~24時間早く異常を検知**できるようになったとの報告もあります。

ビッグデータ市場の成長性

ビッグデータの今後

- 世界中のIT関連企業がビッグデータに注力しつつあります。ビッグデータの市場規模は2012年において116億米ドル（約1.2兆円：1ドル100円想定）と試算されていますが、2017年には485億米ドル（約4.9兆円）規模にまで成長するとも言われています。
- ビッグデータ関連の売上では現状、IBM、オラクル、EMC及びシスコ・システムズといったインフラ系企業が先行しながらも、グーグルやフェイスブック、あるいはアマゾンといったインターネット関連企業も相次いで巨額の投資を表明するなど、一段と賑わいを見せています。
- 現在はまだインフラ投資、及び先行研究の段階にあると言えるビッグデータ市場ですが、やがてインフラが整備され、より洗練されたデータ分析が伴うようになれば、ビッグデータへの関心がより一層高まると考えられます。そしてより広範な企業や産業でビッグデータ利用への需要が高まれば、ITセクターをけん引する市場になることと期待されます。

ビッグデータ 関連の市場規模の推移（予想）



出所 Wikibon　世界60以上のIT関連企業のビッグデータの売上とその予想調査に基づく
時点 2013年2月（2013年以降は予想）

Goldman Sachs Asset Management

本資料は、情報提供を目的としてゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社(以下「弊社」といいます。)が作成した資料であり、特定の金融商品の推奨（有価証券の取得の勧誘）を目的とするものではありません。本資料は、弊社が信頼できると判断した情報等に基づいて作成されていますが、弊社がその正確性・完全性を保証するものではありません。上記は経済や市場等の過去のデータおよび一時点における予測値であり、将来の動向を示唆あるいは保証するものではありません。本資料に記載された市況や見通し等は、本資料作成時点での弊社の見解であり、将来の動向や結果を示唆あるいは保証するものではありません。また、将来予告なしに変更する場合もあります。本資料に記載された個別の銘柄・企業については、あくまでも例示をもって理解を深めていただくためのものであり、いかなる個別銘柄の売買、ポートフォリオの構築、投資戦略の採用等の行為を推奨するものではありません。本資料の一部または全部を、弊社の書面による事前承諾なく(Ⅰ)複写、写真複写、あるいはその他いかなる手段において複製すること、あるいは(Ⅱ)再配布することを禁じます。 © 2014 Goldman Sachs. All rights reserved. <118966.OSF.OTU>